

液剤工場稼働 生産力2倍

ジャパンメディック 34億円投資

外用剤メーカーのジャパンメディック(前田和也社長)は、富山市横越の本社横に液剤工場と倉庫を新設し、4月から稼働を始めた。新工場では危険物製造所の設置許可を取得。取り扱え



ジャパンメディックが新設した工場。富山市横越

るアルコール量が増え、消炎鎮痛剤やうがい薬の生産能力を2倍に引き上げた。投資額は34億円で、2005年に工場を建設して以来の大型投資となる。

新工場は鉄骨造2階建て、倉庫は鉄骨造1階建て。延べ床面積は計3703平方メートル。既存の液剤工場の製造ラインを移管し、生産能力が2倍となった。併せて既存工場ではクリーム剤や軟こう剤のラインを増強した。

ジャパンメディックの23年2月期決算の売上高は前年比3%増の26億7千万円。大手メーカーの受託製造を手がけるほか、近年は

OTC(薬局・薬店向け)向けの自社開発品を相次いで発売している。

セルフレイケーション(自主服薬)の浸透もあって受注が増えており、生産体制を強化している。新工場の建設でさらなる商品提案を進める狙いだ。前田社長は「生産能力を引き上げ、技術を磨いていきたい」と話した。